



紀州新宮蘭ノ澤ノ浮島全景

長橢圓狀倒卵形銳頭デ齒ガアル、主莖ハ短粗、單一デ之ヨリ出ル枝莖ハ一寸五六分許アツテ毛ヲ散布シ傾臥シテ居ル、花ハ短廣ナ總狀ヲナシテ居ル、角ハ橢圓形乃至狹長橢圓形デ扁タク兩端尖ツテ長サハ凡二分餘モアル、中ニ約三顆ノ平扁腎臟狀ノ有緣種子ガ入テ居ル

○紀州新宮蘭ノ澤ノ浮島

和歌山縣新宮高等女學校

太田馬太郎

一、浮島混生植物群落

新宮驛カラ直グ西ヘ數町ニシテ右側ニ蘭澤^{キノヅ}ノ沼澤中ニ浮島ノ森アリ、其地域内ノ土壤ハ常ニ水ヲ含ミ頗ル濕潤ニシテ踊躍スレバ島ノ震動ニ伴ヒ樹木モ亦動搖スルノ奇現象ヲ呈ス、今ヨリ十餘年前迄ハ四周ニ水ヲ繞ラシ徒涉シテ島ニ通ズルヲ得ザリシガ周圍ニ埋立工事ヲ行ヒシタメ土砂沈堆シ其外形ニ變化ヲ及ボシ稍南方ニ移動セルヤノ感アリ、而シテ樹林内ハ外氣ノ溫度ヨリモ三―四度低クシテ水蘚、やまどりぜんまい、てつほしだ、ひとつば、みくりがや、かさすげ、てんだいうやく、やまもも、あかまつ、すぎ等ヲ生ジ一地域内ニ寒暖兩地帶ノ植物混生シ眞ニ分布學上並ニ生態學上頗ル珍稀トスル所ナリ

二、面積

島ノ外形ハ略ボ四角形ヲナシ周圍百六十八間、面積千五百一坪ヲ有ス、島

内地層ノ深サニ至テハ古來未ダ知リタルモノナシ、曾テ竹稗ヲ穿入シ地下三十尺ニ及ビシモ遂ニ地盤ニ達セズシテ止ミタリ

三、成因

熊野川ハ洪積紀ニ於テハ今ノ新宮市街地ヲ河身トシテ流レタルモノニシテ當時浮島ノ地點ハ灣入シ強ク浸蝕作用ニヨツテ深潭ヲ穿テタルモノ、如シ、上流ヨリ流下セル樹木等ハ沈滯シ土砂其上ニ堆積シテ遂ニ浮島ノ地盤ヲ形成シみづごけ、やまどりぜんまい等ノ植物發生シテ水蘚沼野ヲ生ジ其後次第ニ普通性ノ植物ガ侵入シテ遂ニ今日ニ見ル混生植物群落ヲ形成スルニ至レルモノナルベシ

四、浮島ノ植物

混成群落中ノ主ナル植物ヲ舉グレバ左ノ如シ

顯花植物、雙子葉類、合瓣花區

●さく科 たうこぎ せんほんぎく

●すひかづら科 すひかづら

●さつねのまご科 さつねのまご おぎのつめ

●やぶかうじ科 やぶかうじ たいみんたちばな

●しゃくなげ科 おんつつじ もちつつじ

ねちき しやしんぼ

離瓣花區

●繖形科 つぼくさ

●ほるとのき科 ほるとのき こはんもち

●くろうめもどき科 いそのき

●たかとうだい科 なつとうだい ゆつりは

ひめゆつりは

●みつばうつき科 ごんずる

●そよご科 うめもどき くろそよご

●うるし科 はぜのき やまうるし

●まめ科 やぶつるあづき

●ばら科 うしろし なはしろいちご

ふゆいちご

●とべら科 とべら

- くすのき科 いぬぐす やぶにくけい
ばりばりのき てんだいうやく
- ゆきのした科 ごとうづる のりうつぎ
ばいくわあまぢゃ
- うまのあしがた科 うまのあしがた
きつねのぼたん たがらし
- たで科 みぞそば やのねぐさ
- いらくさ科 やぶまを
- くは科 いぬびは
- はんげしやう科 どくだみ はんげしやう
- やまもも科 やまもも
- 單子葉類
- ゆり科 さるとりいばら
- ゐ科 め
- つゆく科 いぼくさ
- かやつりぐさ科 みくりがや ほたるゐ
ひでりこ ひともとすすき あんべらゐ
かさすげ
- 禾本科 あいあし うしのしつぺい

かものはし ささくさ すすき ちごささ
かりまたがや ねずみのを はいぬめり
まこも

- とちかがみ科 くらも
- ひるむしろ科 ひるむしろ
- がま科 がま

裸子植物

- まつ科 あかまつ すぎ

隠花植物、羊齒植物

- まつばらん科 まつばらん
- ぜんまい科 やまどりぜんまい
- うらぼし科 てつほしだ ひとつば のきしのぶ
まめづた いしかぐま ぬりとのを

蘚苔植物

- 蘚類 とがりばみづごけ ほそばみづごけ
ふながたみづごけ おほしのぶごけ
たちはひごけ くしのはごけ
みちのくしらがごけ ちゃぼしらがごけ

尙他ニ苔類、地衣類並ニ淡水藻類等アレドモ其名稱不

明ユエ今茲ニ載スルコト能ハズ

五、老樹ト其根盤

島中ニ生育セル樹木中其最大ナルモノハすぎニシテ幹ノ周圍六尺一寸、高八間半アリテ枯木ノ年輪ニヨリ推測シテ約二百餘年ノ歲月ヲ閱シタラント思ハル、モノナリ、其他幹周六寸以上ノすぎ三百三十七本、やまもも百〇一本アリテ其最大ナルモノハ三尺八寸ノ幹周ヲ有ス、あかまつ六寸乃至四尺四寸ノモノ二十本アリ、はぜ六寸乃至七寸ノモノ二本アリ、とべら幹周一尺四寸ノモノ一本アリ、くすのき二尺四寸ノモノ一本アリ昭和元年九月暴風ノタメ倒伏セシ樹木、すぎ、あかまつ、やまもも等ノ樹根ヲ見ルニ柱根ヲ缺キ無數ノ細根ハ鬚狀ニテ扁平盤狀トナレリ、是レ水中ニ *Pogonochloa* ヲ含ミ水質酸性ヲ呈スルヲ以テ通常ノ土壤ニ生育セルモノニ比シテ根ノ發育異狀ヲ呈シ根盤ノ厚サ三—四寸位、厚キ者ニテモ一尺餘ヲ超エザルナリ

六、傳 説

浮島ハ昔、神倉神社奉仕ノ神倉聖^{ヒツリ}ノ行所タリシ神祕ノ地ニシテ且ツ魔ノ傳説ノ傳ハレルモノアリ、森林中ノ東部ニ底ノ知レザル淵アリ之ヲ「蛇の穴」ト云フ、昔、蘭ノ澤ノ附近ニおゐのト云フ美シキ少女アリシガ或ル日浮島ニ茅穗ヲ取リニ行キ蛇ニ吞マレタリト云フ哀レナル傳説ノ傳ハルアリ、之ニ伴フテ『おゐの見たけれや、蘭の澤にござれ、おゐの蘭の澤の蛇の穴に』ノ俗謠相傳ハレリ

七、浮島ノ荒廢

右ノ魔ノ傳説ニ恐怖ヲ抱キ最近マデハ林内ニ立テ入ル者モ少ナク自然保護ノ狀態ナリシガ近年周圍ニ埋立工事行ハレ外圍ノ變化ニ伴ヒ林内ノ荒廢ヲ馴致シつげもちノ如キ疾ク既ニ其處ニ絶滅セリ

八、天然記念物ノ指定

大正十三年六月伊原理學士ノ視察アリテ「本邦未ダ曾テ斯カル大地積ヲ有シ且ツ大樹ノ生育セル浮島ノアルヲ



浮島ノ森林



浮島ニ於テやまどりぜんまい (*Osmunda cinnamomea* L.) (右) ト
てつほしだ (*Dryopteris gongylodes* O. KUNTZE.) (左) トノ共存生活

見ズ」トノ談アリ、續
キテ同年九月牧野博士
ノ觀察ニヨリ「やまど
りぜんまい其他寒地性
植物ガてつほしだ等ノ
暖地性植物ト混生セル
ハ分布學上珍稀ノ現象
ナリ宜シク保護スベキ
モノナリ」トノ學界ヘ
ノ宣傳ハ大ニ世人ノ注
意ヲ惹クニ至レルモノ
ニシテ遂ニ神祕的ナ魔
ノ浮島モ昭和元年十一
月十五日内務省囑託三
好理學博士ノ査定ヲ受
クルニ至レリ、其結果
「要スルニ蘭澤ノ浮島
ハ本邦暖地ニ於テ稀ニ
見ル所ノ寒生沼野ノ遺

物ニシテ之ニ暖性植物ノ混生群落ノ生成セラレタルノ點ニ於テ植物生態學上及ビ分布學上珍稀ナルモノト云フベシ依テ同地ノ植物群落ヲ天然記念物トシテ指定サレンコトヲ望ム」トノ意見ニヨリ昭和二年四月八日遂ニ天然記念物トシテ指定セラレタリ

○陸中國九戸、膽澤、江刺郡邊ノ植物方言一斑

岩手縣 佐々木喜一



佐々木喜一君
(岩手縣九戸郡種市村
宿戸小學校長)
(昭和四年三月撮影)

今岩手縣陸中九戸郡、膽澤郡、並ニ江刺郡邊ノ植物方言中其意味ノ面白イモノ或ハ食用トナルモノ等若干ヲ茲ニ舉ゲテ見ル、方言ハ正式ノ假名遣ニ據ラズニタゞ發音通りニ記シタ

水澤ハ縣南デ伊達藩領、九戸ハ縣北デ南部藩ニ屬スル、從ッテ其言語並ニ風俗ノ相違スル所亦少ナクナイ、水澤町ハ膽澤郡、種市村ハ九戸郡ニ屬スル

●下ノ「アンチツク」ノモノガ方言デ(一)内ノモノガ通名デアル

●もこなかせ水澤町(あきのさりんさう)嫩葉ヲ食フ ●さらげばな水澤町(あづまぎく)皿ノ様ナ花ノ意 ●あっぱがゐど種市村(あづまぎく)あっぱハ母ノ意、此花ヲ探レバ母ガ井戸ニ投身スルトノ迷信ガアル ●まつまえぎく水澤町(えぞぎく)松前即チ北海道カラ來タトノ意 ●ほれぐさ種市村(かうぞりな)惚草ノ意、即チ葉ヲ取り投ゲレバ着物ニ附ク爲メ斯ク名ヅク ●つけいも種市村(さくいも)鹽漬又ハ糠漬トシテ食スル爲メ ●まつまえいも水澤町(さくいも)松前即チ北海道カラ來タトノ意 ●てでつぽつぽ水澤町(たんばぼ)てでつぽつぽハ山鳩ノ鳴聲、此山鳩ノ鳴ク季節ニ開花スル爲メ ●ちゃんこぐさ水澤町(とさんさう)ちゃんこハ小サイ意 ●つなみぐさ種市村(ひめむかしよもぎ)當村ニハ明